

復帰支援研修の実践報告

～ランチョンセミナーを実施して～

○神澤暁子¹⁾ 松尾友子²⁾ 倉ヶ市絵美佳¹⁾ 橋元春美²⁾

1) 京都府立医科大学 看護実践キャリア開発センター 2) 京都府立医科大学附属病院 看護部

1. はじめに

専門職である看護師が出産や子育てで一旦離職すると、その間に医療の現場は大きく変化しており、復帰時の心理的負担は大きい。A病院では、復帰する看護師の心理的負担が軽減され、円滑に職場へ復帰し働き続けることができることを目的に研修を実施した。研修の内容の報告と今後の課題を明らかにする。

2. 方法

1) 研修内容

(1) 参加対象: 出産後復帰した看護師は研修として参加し、産前産後・育児休暇中の看護師は自由参加とした。

(2) 研修回数: 2ヶ月に1回、計5回行った。

(3) 内容: 昼食をとりながら、復帰後6ヶ月以上経過している看護師を講師に迎え、仕事と育児を両立する工夫、仕事のやりがいについて話をしてもらい、参加者間で情報交換や交流を行なった。

2) 調査方法

(1) 対象: 復帰した看護師19名

(2) 期間: 平成23年5月～平成24年1月

(3) 内容: 復帰時期、研修に参加して情報が得られたか、情報は役にたったか、気持ちの変化はあったか、研修の感想についてアンケート調査を行った。

3. 倫理的配慮

データは研究および研修の改善目的以外に使用しないことを口頭で説明し、質問紙提出をもって同意とした。

4. 結果

アンケート回収率は19名(100%)、復帰時期の平均は産後12ヶ月であった。復帰した看護師の参加率は76%で、参加できなかった理由は、再び産休に入る、中途退職、退職予定のため辞退、部署移動と重なったであった。研修で情報はとても得られた、少し得られたで100%、その情報は、とても役に立った、少し役に立ったで100%であった。参加した気持ちの変化については、とても楽になった、少し楽になったで84%であった。自由記載には「緊張の続いている時期に職場から離れて研修に参加できほっとできる時間だった」「頑張っていこうと前向きに思えた」「同じ境遇にある人達の苦労や工夫を共有できてとてもよかった」「同じ状況の人達と話せて楽しく、気持ちが少し楽になった」「これからも定期的に開催してもらいたい」などの意見があった。

5. 考察

A病院では子どもが1歳6ヶ月になると夜勤開始となるため、それまでに復帰した看護師は、夜勤への不安もあり、研修で得た情報が、その生活変化への対応を考える機会になったと考える。また、自由記載からも同じ状況の参加者と交流することで、日々悩みながら育児と仕事をしているのは自分だけではないと知り、前向きな考えや不安軽減につながったことが示唆された。育児をしながら仕事を続ける看護師のサポートとの1つとして、必要な時期に参加できるよう配慮し、今後もこの支援を継続していくことが必要である。

本報告は文部科学省平成21年度助成事業「看護職キャリアシステム構築プラン」の一部である。